

榎えのき

令和7年6月13日発行 校長 久保田 勲

他者を尊重し思いやりの心を育むために

子どもたちの話を聞いていると、「なるほど、どちらも一理あるな」と感じるがよくあります。先日の児童総会では、「まるかって」という言葉について話し合う場面がありました。ある学級からは、『まるかって』は低学年にはわかりにくいから、『まるくなって』の方がよいと思います」との意見が。一方、児童会本部からは、『まるかって』と『まるくなって』では意味が少し違うので、『まるかって』のままがよいと思います」との主張がありました。ほんの数文字の違いですが、その言葉の意味を真剣に考え合う姿に、感心しました。



私たちが暮らす社会では、誰もが同じ考えをもっているわけではありません。人それぞれ背景や価値観が異なるからこそ、時に意見がぶつかり合うこともあります。しかし、こうした「対立」は、決して悪いことではありません。むしろ、よりよい社会をつくるための出発点となるのです。中学校の社会科では、「**対立**と**合意**」という考え方を学びます。お互いの意見をしっかり主張しながら、話し合いや協力を通じて合意を目指す。この姿勢は、小学生や保護者の皆さんにとっても、大切な学びです。

まず、小学生の皆さんには、自分の考えをしっかりとち、それを言葉にして伝えることの大切さを知ってほしいと思います。自分の思いを伝えることで、相手との理解が深まります。そして同時に、相手の話をよく聞くことも忘れないでください。相手の考えを理解しようとする気持ちが、思いやりの第一歩となります。

保護者の皆様には、子どもたちが意見の違いに直面したとき、その経験を成長のチャンスとできるよう、あたたかく支えていただきたいと思います。「意見が違って仲良くできる」「違う意見には、新しい発見がある」そんなメッセージを、ぜひ家庭でも伝えていただければ幸いです。

異なる意見は新たな発想や解決策を生むチャンスです。対立を学びと捉え、思いやりと尊重の姿勢を大切にすることが、幸せに生きる力となります。

敷島小では、3つの「わ」をキーワードに、他者を尊重し、思いやりの心を育てていきたいと思っています。「**話**」は、それぞれの考えの違いを知る「**対立**」につながります。しかし、そこで終わらず、話し合うことで「**和**」の分かり合える「**合意**」につながります。そして、それが結果として「**輪**」としてつながり合い、**思いやりをもってよりよい社会をつくっていき**るようになります。子どもにとっても、居心地のよい思いやりに溢れた敷島小になるよう、みんなで心と力を合わせていきたいと思っています。



学校 HP

